

平成 24 ～ 27 事業年度における業務実績報告書

抜 粋

目 次

1	法人の自己評価に対し「3名」の委員が異なる評価をつけた項目（1項目）	……	3
2	法人の自己評価に対し「2名」の委員が異なる評価をつけた項目（5項目）	……	4
3	法人の自己評価に対し「1名」の委員が異なる評価をつけた項目（15項目）	……	9

1 法人の自己評価に対し「3名」の委員が異なる評価をつけた項目（1項目）

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人自己評価	委員評価	備考																								
<p>教育の質の向上を図るため、教職員を適正に配置し、組織的な教育実施体制を整備するとともに、大学の組織的な教育活動及び教員の教育活動に対する評価を継続的に行う。</p> <p>また、教育研究活動に必要な設備、図書等の計画的な整備及び充実を図る。</p>	<p>イ 学部教育と大学院教育の連携を図り、多様な履修形態を検討する。</p>	<p>25年度から学部において大学院準備課程を履修できるコースや医学部卒業後に初期研修と並行して履修できるコースなど、大学院博士課程に5つのコースを設置し、学部教育と大学院教育の連携を図る新たな履修制度を開始した。以降毎年、学部生に対して履修制度の説明会を開催し、登録者を募集している。</p> <p>【説明会の開催】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>23</th> <th>24</th> <th>25</th> <th>26</th> <th>27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加教室</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>16</td> <td>19</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>参加学生</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>57</td> <td>15</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>登録学生</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>34</td> <td>17</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	年度	23	24	25	26	27	参加教室	-	-	16	19	17	参加学生	-	-	57	15	5	登録学生	-	-	34	17	5	<p>多様な履修形態について、様々な検討を行い、大学院博士課程に新たに5コースを設置した。また、25年度から医学部・大学院医学研究科博士課程履修プログラムを開始し、多様な履修形態を構築した。</p>	IV	<p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p> <p>Ⅲ</p>	<p>年度評価 評価Ⅳ(3) 評価Ⅲ(1)</p> <p>実績報告書 該当ページ ・・・P20</p> <p>一覧表 該当ページ ・・・P15</p>
年度	23	24	25	26	27																									
参加教室	-	-	16	19	17																									
参加学生	-	-	57	15	5																									
登録学生	-	-	34	17	5																									

2 法人の自己評価に対し「2名」の委員が異なる評価をつけた項目（5項目）

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の内容及び成果に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人自己評価	委員評価	備考
学部教育						
入学者受入方針(アドミッションポリシー)、卒業生の到達目標(ディプロマポリシー)及びその目標達成のための教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)を確立し、教育の質の保証及び向上を図り、和歌山県の地域医療に関する課題に取り組む医療人、また、国際的にも活躍できる医療人を育成する。	キ 早期の体験実習を含めたカリキュラムの編成を行う。また、地域体験実習により、地域医療に対する関心を高めるとともに、理解を深める教育を実践する。	<p>1年次に早期体験実習と福祉施設実習を行い、2年次には、地域実習として保育園実習と障害者福祉施設実習を行った。早期体験実習では、臨床の現場を体験し、将来医師となるために持つべき心構えを改めて確認させるとともに、今後の修学について計画を立てさせることができた。老人福祉施設実習では、施設の形態を理解させ、高齢者とのコミュニケーションスキルを向上させた。保育園実習では、乳幼児と接することで年齢に伴う発達程度、個性の出現を理解させ、乳幼児に対する意思伝達の方法を体験させた。障害者福祉施設実習では、障害者の状況、社会への適応及び家庭における位置について理解させ、支援状況に関する知識も修得させた。加えて、障害者とのコミュニケーションも体験させた。</p> <p style="text-align: right;">〈医学部〉</p> <p>地域医療に対する関心を高め、理解を深める教育を実践するために、1年次には、早期体験実習(かつらぎ町花園地区での宿泊実習)、2年次には、統合実習Iにおいて乳幼児施設、保育所、小学校、企業、官公庁でライフステージの全過程の実習、3年次には、地域医療を支える県内の病院8施設において地域連携実習を実施した。</p> <p style="text-align: right;">〈保健看護学部〉</p>		III	IV IV	<p>年度評価 評価III(6)</p> <p>実績報告書 該当ページ ・・・P11</p> <p>一覧表 該当ページ ・・・P6</p>

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人自己評価	委員評価	備考																								
<p>教育の質の向上を図るため、教職員を適正に配置し、組織的な教育実施体制を整備するとともに、大学の組織的な教育活動及び教員の教育活動に対する評価を継続的に行う。</p> <p>また、教育研究活動に必要な設備、図書等の計画的な整備及び充実を図る。</p>	<p>ウ 図書館の蔵書の充実に努めるとともに、情報の国際化・電子化への対応として図書館機能の充実を図る。</p>	<p>学生用図書は、毎年教育要項、シラバス、及び学生リクエストを参考に、改訂版・ガイドライン版・体系本・シリーズ本等(冊子体)を受け入れている。また、電子ブックの購入により冊子体内容が学内 PC から閲覧が可能となり利便性が向上した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医学図書受入(冊子)</td> <td>392</td> <td>344</td> <td>338</td> <td>384</td> <td>309</td> </tr> <tr> <td>医学系電子ブック</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>電子版オンラインジャーナル契約数</td> <td>1,865</td> <td>1,902</td> <td>3,681</td> <td>4,152</td> <td>4,200</td> </tr> </tbody> </table>		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	医学図書受入(冊子)	392	344	338	384	309	医学系電子ブック	—	—	—	—	14	電子版オンラインジャーナル契約数	1,865	1,902	3,681	4,152	4,200		Ⅲ	Ⅳ Ⅳ	<p>評価Ⅳ(2) 評価Ⅲ(3)</p> <p>実績報告書 該当ページ …P20</p> <p>一覧表 該当ページ …P15</p>
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度																									
医学図書受入(冊子)	392	344	338	384	309																									
医学系電子ブック	—	—	—	—	14																									
電子版オンラインジャーナル契約数	1,865	1,902	3,681	4,152	4,200																									

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人自己評価	委員評価	備考																																										
<p>教育の質の向上を図るため、教職員を適正に配置し、組織的な教育実施体制を整備するとともに、大学の組織的な教育活動及び教員の教育活動に対する評価を継続的に行う。</p> <p>また、教育研究活動に必要な設備、図書等の計画的な整備及び充実を図る。</p>	<p>オ 教育方法と教育者の資質の向上を図るとともに、教育活動の評価を学生及び第三者を含めた多方面から行うことにより、授業内容の客観的な評価の改善を図る。</p>	<p>授業相互評価の対象者である授業を初めて行う教員及び希望者に対して、教育評価部会委員3名が授業を聴講し、評価シートに従って評価を行った。さらに、その評価結果を各教員にフィードバックした。また、ベストティーチャー賞ベストクリニカルティーチング賞の制度を設立した。授業評価及び教育実績を適正に評価し、フィードバックすることにより、授業の質及び教育の質を高めることができた。</p> <p style="text-align: right;">〈医学部〉</p> <p>FD委員会主催で外部講師等による特別講演会及び本学教員による発表会(FDカンファレンス)を開催した。</p> <p>また、教育方法の改善と教育者の資質向上を促進するために、教員相互参観を前期及び後期ともに実施した。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別講演(回)</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>参加者(人)</td> <td>162</td> <td>160</td> <td>224</td> <td>92</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>FDカンファレンス(回)</td> <td>18</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>参観授業数(前期)</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>13</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>参観授業数(後期)</td> <td>4</td> <td>14</td> <td>2</td> <td>12</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>参加者(延べ数)</td> <td>8</td> <td>20</td> <td>7</td> <td>30</td> <td>26</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">〈保健看護学部〉</p>		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	特別講演(回)	5	3	3	3	3	参加者(人)	162	160	224	92	97	FDカンファレンス(回)	18	6	9	7	6	参観授業数(前期)	4	6	5	13	12	参観授業数(後期)	4	14	2	12	14	参加者(延べ数)	8	20	7	30	26		Ⅲ	Ⅳ Ⅳ	<p>年度評価 評価Ⅳ(2) 評価Ⅲ(6)</p> <p>実績報告書 該当ページ ・・・P21</p> <p>一覧表 該当ページ ・・・P16～17</p>
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度																																											
特別講演(回)	5	3	3	3	3																																											
参加者(人)	162	160	224	92	97																																											
FDカンファレンス(回)	18	6	9	7	6																																											
参観授業数(前期)	4	6	5	13	12																																											
参観授業数(後期)	4	14	2	12	14																																											
参加者(延べ数)	8	20	7	30	26																																											

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

2 人材育成・人事の適正化等に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人自己評価	委員評価	備考												
<p>人材育成制度の充実及び人事制度の効果的運用・改善により、職員の能力・モチベーションの向上を図る。</p> <p>また、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」を図るなど、職場環境の充実を図るとともに、教職員が満足感を実感できる職場作りに努める。</p>	<p>イ 育児代替教員制度等を活用し、女性教員の積極的な登用に努める。</p>	<p>育児代替教員制度については、平成18年度から運用を開始し、通知文書や学内向けホームページで周知を行っている。</p> <p>また、教員以外についても、女性職員にとって働きやすい環境やキャリアを継続できる体制を整備するため、いくつかの勤務パターンから選択できる短時間正規職員制度（看護師・助産師）の導入や学内助教の短時間勤務制度（学内助教B）の新設を行い、女性職員の積極的な採用を行っている。併せて男性職員に育児参加計画書の提出を求めるなど、男性職員にも育児参加を促し、女性が働きやすい職場づくりに努めている。</p> <p>託児施設については、利用者の意見から利用資格者の拡大や育児休業中の利用制限の撤廃、料金改定等、託児施設の運営改善に取り組み、保育士不足に対しても利用希望調査を通じて必要な保育士数を把握する等対策を講じた結果、利用者の増加につながった。</p> <p>入所児童数（4月1日時点）</p> <table border="1" data-bbox="616 922 1265 994"> <thead> <tr> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>45名</td> <td>44名</td> <td>40名</td> <td>38名</td> <td>39名</td> <td>58名</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H27年度中に利用資格に追加されたコメディカル3名が入所</p>	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	45名	44名	40名	38名	39名	58名		Ⅲ	Ⅳ Ⅳ	<p>年度評価 評価Ⅳ（1） 評価Ⅲ（3）</p> <p>実績報告書 該当ページ ・・・P48</p> <p>一覧表 該当ページ ・・・P38</p>
23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度													
45名	44名	40名	38名	39名	58名													

第6 その他業務運営に関する目標を達成するための措置

3 基本的人権の尊重に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人自己評価	委員評価	備考												
<p>基本的人権を尊重した教育研究及び職場環境を構築するとともに、教育研究や医療現場において、常に人権の尊重を念頭においた取り組みを行う。</p> <p>さらに、法人は、人権に関わりの深い業務を担っていることから、教職員に対する研修を行うとともに、県民に対しても必要な情報の発信に努める。</p>	<p>ア 教育、研究、医療の場において、人権を尊重し、人格を重んじる教職員を育成する。</p>	<p>全職員を対象とした全学人権同和研修について、職員のニーズを中心に幅広くテーマを選定し、継続して実施することにより、「人権を尊重し、人格を重んじる教職員を育成する」との目標に対して、一定の成果をあげることができた。</p> <p>また 27 年度は、所属長を通じて未受講者への受講呼びかけを強化した結果、受講率を 99.5%までのばすことができた。</p> <p>【受講率の推移 (%)】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受講率</td> <td>90.9</td> <td>92.6</td> <td>79.6</td> <td>98.2</td> <td>99.5</td> </tr> </tbody> </table>		H23	H24	H25	H26	H27	受講率	90.9	92.6	79.6	98.2	99.5	<p>未受講者への呼びかけを強化した結果、受講率が改善した。</p>	IV	III III	<p>年度評価 評価Ⅳ(1) 評価Ⅲ(3)</p> <p>実績報告書 該当ページ ・・・P62</p> <p>一覧表 該当ページ ・・・P49</p>
	H23	H24	H25	H26	H27													
受講率	90.9	92.6	79.6	98.2	99.5													

3 法人の自己評価に対し「1名」の委員が異なる評価をつけた項目（15項目）

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の内容及び成果に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人自己評価	委員評価	備考
学部教育						
入学者受入方針（アドミッションポリシー）、卒業生の到達目標（ディプロマポリシー）及びその目標達成のための教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を確立し、教育の質の保証及び向上を図り、和歌山県の地域医療に関する課題に取り組む医療人、また、国際的にも活躍できる医療人を育成する。	ア アドミッションポリシーに合致し、医療人としての資質を有する者を選抜するため、入学者選抜試験の評価解析を行い、入学選抜方法を検討する。	<p>入学時の成績とその後の成績について追跡調査を行った。推薦入試入学者の入学時の成績については1年生最終時点の成績と相関するとともにその後の成績とも強い相関関係が認められたが、一般入試入学者の入学時の成績については1年生最終時点での成績とは相関せず、1年生最終時点の成績はその後の成績とは強い相関関係を認めた。</p> <p>また、県民医療枠の入学者について卒後の進路についての理解が十分でないことから、入学志願票を変更するとともに、面接時に卒業後のキャリア形成を理解し、県内医療に対する意欲が判定できるよう評価方法を改善した。</p> <p>小論文については得点差が余りなく合否判定における寄与度が低いことから、平成28年度一般入試から配点を変更し、平成30年度入試から廃止することとした。</p> <p>高大接続改革実行プランについては情報収集と行うこととした。</p> <p style="text-align: right;">〈医学部〉</p> <p>入学選抜方法を検討するため、入学者選抜試験の形態別に各年度の成績を追跡調査し、学部過程における成績に係る要因を解析した。</p> <p>また、制度の変化に対応できるよう検討を進めるため、入試制度に関する全国的な動向を把握し、入試担当者間で情報を共有した。</p> <p style="text-align: right;">〈保健看護学部〉</p>		Ⅲ	Ⅳ	<p>年度評価 評価Ⅲ（4）</p> <p>実績報告書 該当ページ …P3</p> <p>一覧表 該当ページ …P1～2</p>

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の内容及び成果に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人自己評価	委員評価	備考																																				
学部教育																																										
入学者受入方針(アドミッションポリシー)、卒業生の到達目標(ディプロマポリシー)及びその目標達成のための教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)を確立し、教育の質の保証及び向上を図り、和歌山県の地域医療に関する課題に取り組む医療人、また、国際的にも活躍できる医療人を育成する。	イ 本学の教育・医療についての正しい理解を促すとともに、入学選抜、進路指導に係る相互理解を深めるため広く広報活動を行う。また、高大連携を進め、多様な人材の獲得に努める。	<p>オープンキャンパスについては、申し込みが定員限度まで達し、多くの高校生等が参加した。また、アンケート結果からも大学の状況が分かると評価が高かった。</p> <p>●オープンキャンパス参加者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医学部</td> <td>173</td> <td>288</td> <td>310</td> <td>268</td> <td>265</td> </tr> </tbody> </table> <p>●大学説明会参加者数等(進路指導部長を対象)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>25</td> <td>22</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>校数</td> <td>14</td> <td>22</td> <td>20</td> <td>19</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>(うち県内校)</td> <td>13</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>14</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">〈医学部〉</p> <p>高大連携を進め、多様な人材を獲得するため、教育方針や教育環境、取り組み等を周知するため、オープンキャンパスの開催、高校訪問を実施した。高校訪問に関しては、前期最終年度(23年度)と比べて、訪問数、参加生徒数とも倍増。その他、毎年、進路指導者向け大学説明会、県高等学校校長会代表者との懇談会を開催した。</p>		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	医学部	173	288	310	268	265		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	人数	28	28	25	22	26	校数	14	22	20	19	19	(うち県内校)	13	15	16	14	15	医学部におけるオープンキャンパスの参加者数における制限を緩和するなど、多くの高校生等が参加できるよう改善した。	IV	III	<p>年度評価 評価IV(2) 評価III(2)</p> <p>実績報告書 該当ページ ・・・P4</p> <p>一覧表 該当ページ ・・・P2</p>
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度																																					
医学部	173	288	310	268	265																																					
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度																																					
人数	28	28	25	22	26																																					
校数	14	22	20	19	19																																					
(うち県内校)	13	15	16	14	15																																					

オープンキャンパス参加者数

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
第1回	162	170	155	154	163
第2回	118	147	157	171	135
計	280	317	312	325	298

高校訪問数

(単位：校、名)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
県内校 参加者	7	10	12	11	15
	121	148	199	187	364
県外校 参加者	0	2	2	2	1
	0	8	31	10	13
計	7	12	14	13	16
	121	156	230	197	377

〈保健看護学部〉

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の内容及び成果に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人自己評価	委員評価	備考																																																																																										
学部教育																																																																																																
入学者受入方針(アドミッションポリシー)、卒業生の到達目標(ディプロマポリシー)及びその目標達成のための教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)を確立し、教育の質の保証及び向上を図り、和歌山県の地域医療に関する課題に取り組む医療人、また、国際的にも活躍できる医療人を育成する。	ウ カリキュラムポリシーに則り、社会人として必要な教養とともに医療人として必要な倫理観、共感的態度やコミュニケーション能力、ケアマインドを育成できる参加型教育を行う。	<p>1 年次に医学部と保健看護学部の合同講義として患者及び家族の会から直接話を聞くケアマインド教育を行うとともに、各学年において高齢者、乳幼児、障がい者施設体験実習を実施し、社会人として必要な教養とともに医療人として必要な倫理観、共感的態度やコミュニケーション能力、ケアマインドを育成できる参加型教育を行なった。</p> <p>ケアマインド教育のテーマとコマ数 対象：医学部1年生、保健看護学部1年生</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>筋萎縮性側索硬化症(ALS)</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>チーム医療</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>TBL</td> <td>2</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーションスキル</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>脊椎損傷・胸椎損傷</td> <td>—</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>脳性麻痺</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>がん</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>視覚障害</td> <td>—</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>アンジェルマン</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>ダウン症</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>患者の会(薬害)</td> <td>—</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>行政・司法</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>和歌山の民話</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>和歌山の地域性から見た医療</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	テーマ	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	筋萎縮性側索硬化症(ALS)	2	2	—	—	—	チーム医療	1	1	1	1	1	TBL	2	—	—	—	—	コミュニケーションスキル	1	—	—	—	—	脊椎損傷・胸椎損傷	—	1	1	1	1	脳性麻痺	1	1	1	1	1	がん	1	1	1	1	1	視覚障害	—	1	1	1	1	アンジェルマン	1	1	1	—	—	ダウン症	1	1	1	1	1	患者の会(薬害)	—	1	—	—	—	行政・司法	2	2	3	2	2	和歌山の民話	—	—	2	—	—	和歌山の地域性から見た医療	—	—	—	2	2		Ⅲ	Ⅳ	<p>年度評価 評価Ⅲ(8)</p> <p>実績報告書 該当ページ …P5</p> <p>一覧表 該当ページ …P3</p>
テーマ	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度																																																																																											
筋萎縮性側索硬化症(ALS)	2	2	—	—	—																																																																																											
チーム医療	1	1	1	1	1																																																																																											
TBL	2	—	—	—	—																																																																																											
コミュニケーションスキル	1	—	—	—	—																																																																																											
脊椎損傷・胸椎損傷	—	1	1	1	1																																																																																											
脳性麻痺	1	1	1	1	1																																																																																											
がん	1	1	1	1	1																																																																																											
視覚障害	—	1	1	1	1																																																																																											
アンジェルマン	1	1	1	—	—																																																																																											
ダウン症	1	1	1	1	1																																																																																											
患者の会(薬害)	—	1	—	—	—																																																																																											
行政・司法	2	2	3	2	2																																																																																											
和歌山の民話	—	—	2	—	—																																																																																											
和歌山の地域性から見た医療	—	—	—	2	2																																																																																											

グループワーク・発表	8	9	9	9	8
合計	20	21	21	19	18

実習施設数及び実習者数（医学部）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
1年次 早期体験実習 (1週間)	11施設 100名	11施設 100名	11施設 100名	11施設 100名	11施設 100名
1年次 老人福祉施設 (5日間)	26施設 100名	26施設 100名	26施設 100名	25施設 100名	25施設 100名
2年次 保育園実習 (2-3日間)	5施設 99名	5施設 94名	5施設 100名	5施設 102名	5施設 99名
2年次 障害者福祉施設 (2-3日間)	5施設 99名	5施設 94名	6施設 100名	6施設 102名	6施設 99名

〈医学部〉

地域医療を支える専門職としてのあり方を修得するため、1年次には、地域で生活している人々との関わりを通して、暮らしと環境について理解し、健康との関連について学ぶことを目的とした早期体験実習（かつらぎ町花園地区での宿泊実習）を実施した。

2年次には、地域で暮らす各発達段階の人々の生活にふれる統合実習Ⅰを保育所、小学校、企業等の施設・機関において実施した。

3年次には、地域医療を支える県内の病院において、地域医療の現状や課題を理解する地域連携実習を実施した。

4年次には、保健看護管理過程に体験的に参加し、保健看護管理過程の実際を病院、企業等の施設・機関において学ぶ統合実習Ⅱを実施した。

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
1年次 早期体験実習 (5日間)	地区全域 84名	地区全域 85名	地区全域 81名	地区全域 80名	地区全 域 82名
2年次 統合実習Ⅰ (5日間)	21施設 84名	19施設 83名	19施設 86名	19施設 85名	23施設 79名
3年次 地域連携実習 (4日間)	10施設 84名	9施設 81名	9施設 80名	8施設 84名	8施設 85名
4年次 統合実習Ⅱ (5日間)	15施設 90名	15施設 85名	16施設 83名	15施設 82名	17施設 85名

〈保健看護学部〉

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置
1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の内容及び成果に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人自己評価	委員評価	備考																																				
学部教育																																										
<p>入学者受入方針(アドミッションポリシー)、卒業生の到達目標(ディプロマポリシー)及びその目標達成のための教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)を確立し、教育の質の保証及び向上を図り、和歌山県の地域医療に関する課題に取り組む医療人、また、国際的にも活躍できる医療人を育成する。</p>	<p>エ 医学又は保健看護学を中心とした総合的・専門的知識、医療技術を身につけるだけでなく、それらを総合的に活用し、問題解決能力を有する人材を育成する。 また、医学部では、国際基準を満たす教育を実践する。</p>	<p>各学年において、問題解決能力を育成するPBL(セミナー)を実施した。 また、臨床実習は52週行い、そのうちの8週を選択実習として実施し、学内及び海外で臨床実習が可能となった。これにより、より総合的な臨床能力の育成に役立った。 また、国際基準に準拠するため、平成27年度より1時限70分、1日5時限のカリキュラムとした。さらに国際化に対応するため、英語教育の充実を図る目的で、1年生全員にTOEFLを受験させることとした。</p> <p>●PBL(セミナー)テーマ数と期間(医学部)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年次 教養セミナー</td> <td>12テーマ 後期</td> <td>13テーマ 後期</td> <td>14テーマ 後期</td> <td>13テーマ 後期</td> <td>14テーマ 後期</td> </tr> <tr> <td>2年次 教養特別セミナー</td> <td>10テーマ 前期</td> <td>10テーマ 前期</td> <td>11テーマ 前期</td> <td>10テーマ 前期</td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> <tr> <td>2年次 基礎PBL</td> <td>12テーマ 後期</td> <td>12テーマ 後期</td> <td>12テーマ 後期</td> <td>12テーマ 後期</td> <td>12テーマ 後期</td> </tr> <tr> <td>3年次 基礎PBL</td> <td>8テーマ 前期</td> <td>10テーマ 前金</td> <td>10テーマ 前期</td> <td>10テーマ 前期</td> <td>11テーマ 前期</td> </tr> <tr> <td>4年次 臨床PBL</td> <td>14科目</td> <td>13科目</td> <td>12科目</td> <td>12科目</td> <td>12科目</td> </tr> </tbody> </table> <p>※4年次については科目数</p>		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	1年次 教養セミナー	12テーマ 後期	13テーマ 後期	14テーマ 後期	13テーマ 後期	14テーマ 後期	2年次 教養特別セミナー	10テーマ 前期	10テーマ 前期	11テーマ 前期	10テーマ 前期	/	2年次 基礎PBL	12テーマ 後期	3年次 基礎PBL	8テーマ 前期	10テーマ 前金	10テーマ 前期	10テーマ 前期	11テーマ 前期	4年次 臨床PBL	14科目	13科目	12科目	12科目	12科目	<p>医学部において、問題解決能力や総合的な臨床能力の育成を図るため、PBLを実践するとともに、臨床実習の充実に努めた。さらには、国際基準に対応するための英語教育の充実を図るため、TOEFLの導入等を行った。</p>	IV	III	<p>年度評価 評価IV(2) 評価III(7)</p> <p>実績報告書 該当ページ ・・・P7</p> <p>一覧表 該当ページ ・・・P3～4</p>				
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度																																					
1年次 教養セミナー	12テーマ 後期	13テーマ 後期	14テーマ 後期	13テーマ 後期	14テーマ 後期																																					
2年次 教養特別セミナー	10テーマ 前期	10テーマ 前期	11テーマ 前期	10テーマ 前期	/																																					
2年次 基礎PBL	12テーマ 後期	12テーマ 後期	12テーマ 後期	12テーマ 後期	12テーマ 後期																																					
3年次 基礎PBL	8テーマ 前期	10テーマ 前金	10テーマ 前期	10テーマ 前期	11テーマ 前期																																					
4年次 臨床PBL	14科目	13科目	12科目	12科目	12科目																																					

●学外臨床実習（医学部）

年度	期間	学外実習実績	
23	50週	7病院 15診療科 20名	紀北分院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南市民病院 国立病院機構和歌山病院 社会保険紀南病院 南和歌山医療センター
24	52週	6病院 7診療科 8名	紀北分院 済生会和歌山病院 海南市民病院 有田市立病院 社会保険紀南病院 南和歌山医療センター
25	52週	13病院 31診療科 67名	紀北分院 橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 こころの医療センター 社会保険紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦町立温泉病院 新宮市立医療センター
26	52週	10病院 34診療科 66名	紀北分院 橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 国保日高総合病院 紀南病院 南和歌山医療センター 那智勝浦町立温泉病院

27	52週	14病院 48診療科 104名	紀北分院 橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 こころの医療センター 国保日高総合病院 国立和歌山病院 紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦町立温泉病院、
----	-----	-----------------------	--

海外臨床実習（医学部）

年度	施設・人数	
23	—	
24	チャールズ大学（チェコ）	2名
	マイアミ大学（アメリカ）	1名
	アーカンソー大学（アメリカ）	1名
	ミネソタ大学（アメリカ）	2名
	ハワイ大学（アメリカ）	2名
25	チャールズ大学（チェコ）	2名
	ハワイ大学（アメリカ）	2名
	ワシントン大学（アメリカ）	1名
26	チャールズ大学（チェコ）	2名
	MD アンダーソンがんセンター （アメリカ）	1名
	リエカ大学（クロアチア）	1名
27	チャールズ大学（チェコ）	2名
	ハワイ大学（アメリカ）	1名

〈医学部〉

「人間の理解」、「社会の理解」及び「人間と生命倫理」に関する科目を開講するとともに、1年次の「教養セミナー」では5～6名のグループに分け、3年次の「保健看護研究Ⅰ」、4年次の「保健看護研究Ⅱ」及び「保健看護管理演習」では、3～5名のグループに教員1名を配置し、それぞれ必修科目として開講し、少人数での演習や実習を実施した。

<教養セミナー>

自らの力で解決していくプロセスを体験させることにより、学習に必要な思考力や協調性、コミュニケーション能力を養うために、少人数で討論を行いながら、写真や本等の提供された素材から探求したい課題を自主的に設定。

<保健看護研究Ⅰ>

保健看護研究を实践するうえで必要となる研究方法、文献の活用、データの収集と統計処理、報告書の作成、倫理規範などに関する知識を深めるとともに、研究の各段階の具体的な進め方の実際について修得。

<保健看護研究Ⅱ>

その研究課題に最もふさわしい研究手法の選択、研究計画書の作成、研究の実施、報告書や論文の作成について修得。

<保健看護管理演習>

看護管理（マネジメント）の基本的概念を理解し、安全で質の高い看護サービスが提供できるために必要な知識を修得。

〈保健看護学部〉

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の内容及び成果に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人自己評価	委員評価	備考																																										
大学院教育																																																
先進的な医療を支える高度で専門的な人材を育成する。 独創的かつ高度な学術研究を行い、地域社会のみならず国際的にも活躍できる人材を育成する。	ウ 博士課程において、学会での発表や研究助成金の獲得、国際的学会誌への積極的な論文発表を奨励する。	<p>国際的学会誌等への発表を奨励するため、大学院生が対象となる研究助成制度や学会の開催情報を指導教員等を通じて積極的に周知するとともに学内掲示板や学内ホームページに掲示・掲載した。</p> <p>(論文発表数と国際学会発表数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>論文発表数</td> <td>-</td> <td>36</td> <td>49</td> <td>60</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>国際学会発表数</td> <td>-</td> <td>83</td> <td>51</td> <td>39</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(医学研究科)</p> <p>国際的学会誌等への発表を奨励するため、大学院生が対象となる研究助成制度や学会の開催情報を学内掲示板や学内ホームページに掲示・掲載した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国際学会発表 (回)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>国内学会発表 (回)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>6</td> <td>14</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>論文発表 (編)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(保健看護学部)</p>		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	論文発表数	-	36	49	60	46	国際学会発表数	-	83	51	39	32		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	国際学会発表 (回)	-	-	0	3	3	国内学会発表 (回)	-	-	6	14	24	論文発表 (編)	-	-	1	5	9		Ⅲ	Ⅱ	<p>年度評価 評価Ⅳ(1) 評価Ⅲ(4)</p> <p>実績報告書 該当ページ ・・・P16</p> <p>一覧表 該当ページ ・・・P10</p>
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度																																											
論文発表数	-	36	49	60	46																																											
国際学会発表数	-	83	51	39	32																																											
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度																																											
国際学会発表 (回)	-	-	0	3	3																																											
国内学会発表 (回)	-	-	6	14	24																																											
論文発表 (編)	-	-	1	5	9																																											

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人自己評価	委員評価	備考												
<p>学生が安心して勉学に打ち込める環境が重要であるとの視点に立ち、留学生を含む多様な学生に対応した学習支援及び生活支援体制を充実させる。</p>	<p>ア 学生の学習、健康、生活等の問題に対して対応できるよう支援体制の充実を図る。</p>	<p>新入生研修を行い、健康管理および修学上の問題、学習環境についての情報提供を行った。「生活支援ガイドブック」を作成し配布した。カリキュラム専門部会、教育評価部会に学生員を参加させ、意見を広く聴取した。学長ランチミーティングを行い、学生からの要望、修学状況を把握した。担任制を改善し、学生の支援ができる体制を整えた。学生部長への「医学部生の相談ホットライン」を設置し、相談の機会を増やした。「課外活動支援助成金」を平成26年度から創設し、クラブ活動を支援した。</p> <p style="text-align: right;">〈医学部〉</p> <p>学生に対するカウンセリングを行う学生相談窓口を設置した。教員が学生からの相談を受けるためのオフィスアワー制度を実施した。</p> <p style="text-align: right;">〈保健看護学部〉</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カウンセリンググループ相談者 (延べ人数)</td> <td style="text-align: center;">87</td> <td style="text-align: center;">171</td> <td style="text-align: center;">197</td> <td style="text-align: center;">104</td> <td style="text-align: center;">124</td> </tr> </tbody> </table>		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	カウンセリンググループ相談者 (延べ人数)	87	171	197	104	124		Ⅲ	Ⅳ	<p>年度評価 評価Ⅳ(3) 評価Ⅲ(8)</p> <p>実績報告書 該当ページ ・・・P22</p> <p>一覧表 該当ページ ・・・P17～18</p>
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度													
カウンセリンググループ相談者 (延べ人数)	87	171	197	104	124													

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び成果等に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人自己評価	委員評価	備考										
がんに対する総合的な研究など重点的に取り組まなければならない分野における独創的な研究及び先進的な研究を推進する。	イ 論文発表を促進するとともに、論文の質の向上を図る。	<p>学内研究予算の適正配分や外部研究費の獲得支援を行い、研究活性化を促進した。</p> <p>27年4月から臨床研究センターに英文エディター（英語論文校正・校閲担当教員）を配属し、英語論文の執筆指導や文書校正等を行った。</p> <p>また、臨床研究センターにおいて、統計解析の知識を高めるための医学統計セミナーや臨床研究の実施に必要な知識を高めるための臨床研究セミナー等を実施した。</p> <p>●PubMed収録英語原著論文数(本)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>162</td> <td>187</td> <td>183</td> <td>209</td> <td>182</td> </tr> </tbody> </table>	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	162	187	183	209	182	臨床研究センターに英文エディターを配属し英語論文の作成支援を行ったが、PubMed収録英語原著論文数の増加には至らなかった。	II	III	<p>評価Ⅲ(4)</p> <p>評価Ⅱ(2)</p> <p>実績報告書 該当ページ ・・・P24</p> <p>一覧表 該当ページ ・・・P21</p>
23年度	24年度	25年度	26年度	27年度												
162	187	183	209	182												

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置

(1) 医療の充実及び実践に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人自己評価	委員評価	備考																														
<p>地域医療の中核機関として、がん診療、救急医療、周産期・小児医療などの重点分野について、さらなる充実を図るとともに、高度かつ先進的な医療の充実に引き続き努める。</p> <p>また、医療の安全性を高める管理体制を確立することにより、患者に安全・安心で質の高い医療を提供する。</p> <p>附属病院本院と附属病院紀北分院の特色と果たすべき役割を明確にし、それぞれの病院において最大限の能力を発揮できるよう相互の連携を図る。</p>	<p>ア 和歌山県がん診療連携拠点病院として、がん診療体制等の整備・充実を図り、がん対策に総合的、計画的に取り組んでいく。</p>	<p>・手術室を12室から19室へ、内視鏡検査・治療室を5室から9室へ増室し、必要となる医療機器や関連備品を整備</p> <p>・化学療法センターのベッド数を15床から20床へ増床</p> <p>・緩和ケアセンターを開設し、緊急緩和ケア病床を確保</p> <p>上記の取組等により、高度で先進的ながん治療等を行う体制、がん化学療法の体制、がん患者の早期からの緩和ケア提供体制を充実強化させ、総合的、計画的にがん対策に取り組むことができた。また、悪性腫瘍手術等の件数の増加につなげることができた。</p> <table border="1" data-bbox="616 798 1288 1173"> <thead> <tr> <th></th> <th>23</th> <th>24</th> <th>25</th> <th>26</th> <th>27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>悪性腫瘍手術件数(件)</td> <td>2,462</td> <td>2,546</td> <td>2,644</td> <td>2,642</td> <td>2,701</td> </tr> <tr> <td>化学療法施行患者延べ数(人)</td> <td>8,514</td> <td>9,758</td> <td>10,812</td> <td>10,569</td> <td>10,723</td> </tr> <tr> <td>手術支援ロボット「ダヴィンチ」加療実績(件)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>60</td> <td>99</td> <td>107</td> </tr> <tr> <td>強度変調放射線治療器「トモセラピー」(IMRT)加療実績(件)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2,118</td> <td>3,499</td> <td>3,809</td> </tr> </tbody> </table> <p>院内がん登録及び地域がん登録を行うことにより、がん対策の基礎データの蓄積を行った。</p> <p>院内がん登録について、本院の全がん患者の診療状況を登録し、結果を公表するとともに、地域がん登録について、県から登録事業を受託し、登録及び報告書の作成を行った。</p>		23	24	25	26	27	悪性腫瘍手術件数(件)	2,462	2,546	2,644	2,642	2,701	化学療法施行患者延べ数(人)	8,514	9,758	10,812	10,569	10,723	手術支援ロボット「ダヴィンチ」加療実績(件)	-	-	60	99	107	強度変調放射線治療器「トモセラピー」(IMRT)加療実績(件)	-	-	2,118	3,499	3,809		Ⅲ	Ⅳ	<p>年度評価 評価Ⅳ(1) 評価Ⅲ(13)</p> <p>実績報告書 該当ページ ・・・P28</p> <p>一覧表 該当ページ ・・・P24</p>
	23	24	25	26	27																															
悪性腫瘍手術件数(件)	2,462	2,546	2,644	2,642	2,701																															
化学療法施行患者延べ数(人)	8,514	9,758	10,812	10,569	10,723																															
手術支援ロボット「ダヴィンチ」加療実績(件)	-	-	60	99	107																															
強度変調放射線治療器「トモセラピー」(IMRT)加療実績(件)	-	-	2,118	3,499	3,809																															

		【登録件数】								
		23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度				
		院内がん	2, 229	2, 408	2, 612	2, 791	2, 690			

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置

(1) 医療の充実及び実践に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人自己評価	委員評価	備考																																				
<p>地域医療の中核機関として、がん診療、救急医療、周産期・小児医療などの重点分野について、さらなる充実を図るとともに、高度かつ先進的な医療の充実に引き続き努める。</p> <p>また、医療の安全性を高める管理体制を確立することにより、患者に安全・安心で質の高い医療を提供する。</p> <p>附属病院本院と附属病院紀北分院の特色と果たすべき役割を明確にし、それぞれの病院において最大限の能力を発揮できるよう相互の連携を図る。</p>	<p>キ 医療安全及び感染制御の更なる体制強化により安全管理体制の充実を図るとともに、安全で質の高い医療を提供する。</p>	<p>BLS（Basic Life Support：一次救命処置）研修の実技講習開催、初期研修医の技術等の向上のためのセミナーの開催により、安全な医療を提供する体制を強化した。特別研修等を含めたリスクマネージャー会議の開催により、各部署の安全管理を行うリスクマネージャーの育成等を行い、各部門の連携を強化し、安全管理体制の充実に努めた。また、厚生労働省の医療事故調査に関するガイドラインに基づき、医療事故調査制度に係る指針を整備、職員からの死亡報告書の提出等により、医療事故調査体制の確保に向けた取組を実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研修会(回)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>参加者(名)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>237</td> <td>396</td> <td>503</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">〈医療安全推進部〉</p> <p>紀北分院の全職員を対象にした医療安全及び感染対策の研修会を開催し、医療安全と感染対策の意識向上につなげることができた。</p> <p>また、医療安全マニュアルと感染対策マニュアルを見直し、全職員に周知することにより医療安全と感染対策の向上につなげた。</p> <p>【医療安全に係る研修】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>154</td> <td>266</td> <td>353</td> <td>630</td> <td>413</td> </tr> </tbody> </table>		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	研修会(回)	-	-	3	3	2	参加者(名)	-	-	237	396	503		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	開催回数	3	7	7	9	4	参加者数	154	266	353	630	413	<p>医療安全において研修や技能訓練の強化を行い、研修の参加者が増加した。</p> <p>また、感染制御の体制を強化したことにより相談件数が増加し、感染症等の問題解決を促進することができた。</p>	IV	III	<p>年度評価 評価IV(6) 評価III(17)</p> <p>実績報告書 該当ページ ・・・P32</p> <p>一覧表 該当ページ ・・・P26～27</p>
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度																																					
研修会(回)	-	-	3	3	2																																					
参加者(名)	-	-	237	396	503																																					
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度																																					
開催回数	3	7	7	9	4																																					
参加者数	154	266	353	630	413																																					

【感染制御に係る研修】

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
開催回数	4	8	10	10	7
参加者数	120	299	362	362	322

〈紀北分院〉

感染予防対策委員会、ICT 会議に加えて、インфекションマネジャーの位置づけを明確化し、感染制御の体制を強化した。また、薬剤師の専従配置により抗菌薬使用状況の監視を強化し、院内外からの相談も積極的に受けることにより、各部署の感染症や感染対策に関する問題解決を促進することができ、安全な医療の提供に貢献できた。

研修会参加者数（人）

23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
2,668	3,496	3,493	3,930	4,090

長期使用への介入症例数（件）

	23	24	25	26	27
長期使用介入症例数	-	-	206	218	168
介入後の改善症例数	-	-	135	156	118

相談件数（件）

23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
539	674	662	818	1095

〈感染制御部〉

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置

(2) 地域医療への貢献に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人自己評価	委員評価	備考																				
<p>県行政及び地域の医療機関との連携及び交流により、救急医療、災害医療及びへき地医療等の充実を支援するとともに、地域における医師をはじめとする医療体制の充実に寄与する。</p> <p>特に、災害医療については、東海・東南海・南海地震の同時発生が想定される中、基幹災害医療センターとしての使命を果たせるよう機能の充実を図る。</p>	<p>イ 紀北分院において、地域の病院、診療所、施設との連携を強化し、高齢者を中心とした総合診療の充実を図るとともに、地域における一次救急及び二次救急の受入並びに二次医療圏内救急体制への参画を積極的に行う。</p>	<p>病院群輪番制当直体制に参画した。</p> <p>当番日の収容状況 (件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>114</td> <td>131</td> <td>142</td> <td>165</td> <td>153</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、伊都消防組合とは、症例検討会の開催、伊都消防組合に対する救急受入要望調査、伊都消防組合救急救命士の病院実習受入れを行い、さらなる連携を深めた。一次・二次救急の受入れについても、「断らない医療」の意識を持ち救急患者の受け入れを行った。</p> <p>救急車搬送件数 (件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>413</td> <td>517</td> <td>552</td> <td>617</td> <td>527</td> </tr> </tbody> </table>	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	114	131	142	165	153	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	413	517	552	617	527		Ⅲ	Ⅳ	<p>年度評価 評価Ⅳ(3) 評価Ⅲ(1)</p> <p>実績報告書 該当ページ ・・・P37</p> <p>一覧表 該当ページ ・・・P29～30</p>
23年度	24年度	25年度	26年度	27年度																						
114	131	142	165	153																						
23年度	24年度	25年度	26年度	27年度																						
413	517	552	617	527																						

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置

(2) 地域医療への貢献に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人自己評価	委員評価	備考
<p>県行政及び地域の医療機関との連携及び交流により、救急医療、災害医療及びへき地医療等の充実を支援するとともに、地域における医師をはじめとする医療体制の充実に寄与する。</p> <p>特に、災害医療については、東海・東南海・南海地震の同時発生が想定される中、基幹災害医療センターとしての使命を果たせるよう機能の充実を図る。</p>	<p>エ 県及び地域の医療機関との連携等により、救急医療、災害医療、へき地医療等の各医療体制の充実を支援するとともに、県地域医療支援センターを中心とした地域及び県民に対する医療及び看護に貢献する医療・看護従事者を充実する仕組みを構築する。</p>	<p>県内で卒後9年間勤務する県民医療枠及び地域医療枠のキャリア形成支援に取り組み、県民医療枠向けにキャリア形成プログラム冊子を作成し、専門医ごとのキャリア形成モデルを提示するとともに、地域医療枠のキャリア形成モデルの一つとして、家庭医療専門医（総合診療専門医）後期研修プログラムを作成し、日本プライマリ・ケア連合学会から認定を受けるなど、プライマリ・ケアに関する研修及び教育体制を整備することができた。</p> <p>また、県内16病院に遠隔医療支援システムを導入し、学内で開催されている講演を配信するなど、県内各地で研修する県民医療枠及び地域医療枠医師等がテレビ会議システムを通じて安心して学べる環境を整備するとともに、当システムを活用した遠隔外来を実施し、地域医療を支援することができた。</p> <p>〈地域医療支援センター〉</p> <p>救急医療及び災害医療における看護の役割を修得できるよう、2年次生に災害医療の講義、3年次生には地域医療を支える県内の病院において地域連携実習、また、医学部の学生と合同で地域・僻地医療のあり方について考えるため、岡山県哲西町診療所において特別実地研修を実施。</p> <p>〈保健看護学部〉</p> <p>県内で開催された大規模イベント等に医師・看護師を派遣し、医療救護業務の支援を積極的に行った。</p> <p>紀の国わかやま国体、紀の国わかやま大会 医師 延べ33名 看護師 延べ30名 高野山開創1200年記念大法会 医師 延べ38名 全国高等学校総合体育大会 医師 6名 全国高等学校総合体育大会における行啓 医師 1名 看護師 1名</p> <p>〈経理課〉</p>		III	IV	<p>年度評価 評価IV(1) 評価III(8)</p> <p>実績報告書 該当ページ …P38</p> <p>一覧表 該当ページ …P30～31</p>

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

1 法令及び倫理等の遵守並びに内部統制システムの構築等運営体制の改善に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人自己評価	委員評価	備考
<p>法人内の連携強化に向け、教職員の意識改革を進め、理事長のリーダーシップのもと教職員が一丸となって、法令・倫理の遵守を徹底することにより、より一層社会に信頼される大学を目指すとともに、法人の内部統制システムを強化することにより、継続的かつ安定的な大学運営を目指す。</p>	<p>ア 理事長のリーダーシップのもと、機能的かつ効果的な業務運営に取り組むとともに、公立大学法人としての健全性と効率性を確保するため、理事長を中心とした経営管理体制の強化を図る。</p>	<p>理事長直下の会議等で経営上の課題に対する改善方針や取組方針について協議を行い、その結果を科長会等で報告することで、課題への取組の周知徹底を図った。また、理事会等において法人の経営・財務状況について報告し、状況の把握及び情報の共有を図った。 (経営企画課)</p> <p>理事長をトップに重要事項の審議を行う理事会、教育研究審議会その他の会議において、理事長のリーダーシップのもと綿密な政策検討と迅速な意思決定が行われた。また、議事録を組織内に配布することにより議論の経過及び結果を共有し、適切な進捗管理及び組織内の連携を図った結果、決定事項を円滑に実施することができた。 (主な決定・実施事項等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域医療機関からの新規医師紹介要請に一元的に対応するため、平成25年度に地域医療機関医師適正配置検討委員会を設置した。 ・ 県民の要望等に応え、形成外科学講座、リウマチ・膠原病科学講座の新設を平成26年度に決定し、平成27年度に開講した。 ・ 病院収入増と執務環境改善を図るため、医療技術職員19名の増員を平成26年度に決定し、平成27年度に採用した。 ・ 教養及び基礎部門の研究活性化を図るため、平成26年度に特別研究員5名を採用した。 ・ 本学の存在意義を学内外にアピールし、関係者が本学の将来展望を考える契機とするため、平成27年度に大学創立70周年事業を実施した。 ・ 学長が適切なリーダーシップ発揮を発揮できるよう、平成27年度に部局長等の選考規程の改正を行った。 <p>7対1看護体制の維持、東棟手術室の全面稼働、新設科設置に伴う外来業務への対応等のため、より働きやすい交替勤務制度の構築、採用試験の時期・回数の見直し、修学奨学金の拡大を図り、平成27年度に看護師110名(前年度は90名程度)を採用した。 (総務課)</p>		III	IV	<p>年度評価 評価IV(1) 評価III(4)</p> <p>実績報告書 該当ページ ・・・P46</p> <p>一覧表 該当ページ ・・・P36～37</p>

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

1 法令及び倫理等の遵守並びに内部統制システムの構築等運営体制の改善に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人自己評価	委員評価	備考																						
法人内の連携強化に向け、教職員の意識改革を進め、理事長のリーダーシップのもと教職員が一丸となって、法令・倫理の遵守を徹底することにより、より一層社会に信頼される大学を目指すとともに、法人の内部統制システムを強化することにより、継続的かつ安定的な大学運営を目指す。	イ 内部監査機能の充実や法令遵守の徹底により、不正やハラスメントのない大学運営を維持するとともに、教職員が一丸となって法令遵守推進体制の強化を図る。	<p>事務局各課室を対象とする定期監査及び臨時監査の実施並びに無通告検査を実施した。</p> <p>【無通告検査】</p> <table border="1"> <tr> <td>23</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>26</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>13</td> </tr> </table> <p>危機対策室、監事及び監査法人が不正防止や法令遵守に関する情報を交換する会議を開催した。</p> <p>平成25年2月に学内でセクシュアルハラスメントの事実が発覚した。今後再発することのないよう、職員からの相談を危機対策室で集約した。 (危機対策室)</p> <p>公的研究費の不正防止に向けて、科学研究費執行に関する説明会、コンプライアンス研修及び取引事業者説明会を毎年度継続的に実施するとともに、平成27年度に国のガイドラインに基づき、公的研究費不正防止基本方針、公的研究費不正防止計画及び研究不正防止計画を策定し、理事長をトップとする責任体制の下で公的研究費の管理・運営に関わる全ての者を対象とする誓約書の徴取、研究費の運営・管理状況を確認するモニタリング、研究者798名を対象とする研究倫理教育を実施するほか、各所属等に研究データ管理者及び若手研究者に対する支援助言を行うメンターを配置するなど不正防止対策の一層の強化を図った。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>23</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>26</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>科学研究費執行説明会</td> <td>197名 (7回)</td> <td>185名 (7回)</td> <td>213名 (7回)</td> <td>238名 (7回)</td> <td>263名 (7回)</td> </tr> </table>	23	24	25	26	27	1	6	2	1	13		23	24	25	26	27	科学研究費執行説明会	197名 (7回)	185名 (7回)	213名 (7回)	238名 (7回)	263名 (7回)		Ⅲ	Ⅳ	<p>年度評価 評価Ⅲ(3) 評価Ⅱ(2)</p> <p>実績報告書 該当ページ ・・・P47</p> <p>一覧表 該当ページ ・・・P37</p>
23	24	25	26	27																								
1	6	2	1	13																								
	23	24	25	26	27																							
科学研究費執行説明会	197名 (7回)	185名 (7回)	213名 (7回)	238名 (7回)	263名 (7回)																							

		コンプライアンス 研修	600名	758名	698名	699名	839名					
		取引事業者 説明会	14社 (2回)	14社 (2回)	15社 (2回)	30社 (2回)	38社 (2回)					
※上段は参加者数又は参加企業数、下段()内は実施回数								〈研究推進課〉				

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

1 自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人自己評価	委員評価	備考																														
<p>医業収入の確保、診療報酬の適正化を図ることにより、健全な病院運営を推進する。</p> <p>また、寄付制度の拡充、国等の科学研究費補助金及び民間機関等との共同研究・受託研究等外部資金の獲得に積極的に取り組み、多様な収入の確保に努める。</p>	<p>ア 健全な病院運営を推進するため、地域ニーズに対応した外来診療の実施及び病床の効果的な運用を図り、医業収入を確保するよう努める。</p>	<p>経営に関する各種会議を随時開催するなど病院運営について随時情報共有、検討及び議論を行うとともに、定期的に理事会で報告をすることで課題に対して適切な対応をとることができた。</p> <p>その結果、前期最終年度（23年度）と比べ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院診療稼働額で、1,773百万の増（11%増） ・入院診療単価で、8,258円の増（12%増） ・外来診療稼働額で、1,855百万の増（33%増） ・外来診療単価で、3,933円の増（23%増） <p>となり、医事収入の増加につながった。</p> <table border="1" data-bbox="616 794 1265 1098"> <thead> <tr> <th></th> <th>23</th> <th>24</th> <th>25</th> <th>26</th> <th>27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院診療稼働額(百万円)</td> <td>16,116</td> <td>17,004</td> <td>16,926</td> <td>17,207</td> <td>17,889</td> </tr> <tr> <td>入院診療単価(円)</td> <td>68,274</td> <td>72,096</td> <td>72,899</td> <td>74,229</td> <td>76,532</td> </tr> <tr> <td>外来診療稼働額(百万円)</td> <td>5,688</td> <td>6,070</td> <td>6,415</td> <td>6,361</td> <td>7,543</td> </tr> <tr> <td>外来診療単価(円)</td> <td>16,767</td> <td>17,277</td> <td>17,612</td> <td>17,601</td> <td>20,700</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(経営企画課)</p> <p>病床数の増減ルールの見直しを行い、病床利用実績を基に、実態に即した効率的な病床の振り分けを行った。</p> <p>その結果、前期最終年度（23年度）と比べ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入院患者数で、1,623入の増（11%増） ・平均在院日数で、1.6日の減（10%減） <p>となり、医事収入の増加につながった。</p>		23	24	25	26	27	入院診療稼働額(百万円)	16,116	17,004	16,926	17,207	17,889	入院診療単価(円)	68,274	72,096	72,899	74,229	76,532	外来診療稼働額(百万円)	5,688	6,070	6,415	6,361	7,543	外来診療単価(円)	16,767	17,277	17,612	17,601	20,700		Ⅲ	Ⅳ	<p>年度評価 評価Ⅲ（14）</p> <p>実績報告書 該当ページ ・・・P50～52</p> <p>一覧表 該当ページ ・・・P40～41</p>
	23	24	25	26	27																															
入院診療稼働額(百万円)	16,116	17,004	16,926	17,207	17,889																															
入院診療単価(円)	68,274	72,096	72,899	74,229	76,532																															
外来診療稼働額(百万円)	5,688	6,070	6,415	6,361	7,543																															
外来診療単価(円)	16,767	17,277	17,612	17,601	20,700																															

	23	24	25	26	27
新入院患者数（人）	15,013	15,786	16,091	16,517	16,636
平均在院日数（日）	15.7	15.0	14.5	14.1	14.1

〈経理課〉

平成 24 年から内科系の予約外診療枠を設け、予約のない患者の診察を始め、平成 24 年 6 月から緩和ケアを含めた 9 つの看護専門外来を実施した。平成 26 年 4 月からは禁煙外来と心臓リハビリテーションの専門外来を開始し、平成 27 年 3 月からがんリハビリテーションの専門外来を開始した。平成 27 年 4 月から心臓リハビリテーション専門外来は常勤の循環器内科医師がいなくなったため実施できなくなったが、他の専門外来は引き続き実施した。平成 27 年 10 月からは腎症指導を開始した。

また、各階病棟看護師長の連携のもと、看護部長によるベッドコントロールにより病床を運用した結果、前期最終年度（平成 23 年度）を上回る病床利用率を実現することができた。

病床利用率 (%)

23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
70.3	74.1	75.6	72.2	71.3

これらの結果、前期最終年度（平成 23 年度）と比べ、

- ・入院診療稼働額で、1 8 7 百万円の増（21%増）
- ・入院診療単価で、7,918 円の増（19%増）
- ・外来診療稼働額で、2 3 8 百万円の増（57%増）
- ・外来診療単価で、3,174 円の増（47%増）

となり、医業収入の増加につながった。

	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
入院診療稼働額(百万円)	886	863	1,000	1,024	1,073
入院診療単価(円)	41,015	37,984	43,143	46,270	48,933

		外来診療稼働額(百万円)	416	460	466	532	654					
		外来診療単価(円)	6,774	7,260	7,560	8,104	9,948					
								〈紀北分院〉				

第5 自己点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

1 評価の充実に関する目標を達成するための措置

中期目標	中期計画	中期計画の達成状況及び達成見込み	特記事項	法人 自己 評価	委員 評価	備考
<p>自己点検・評価や第三者評価等を行うことにより、大学の教育研究活動の客観性及び透明性を高め、その結果を大学運営の改善と活性化に反映させるとともに、これを公表し、社会への説明責任を果たす。</p>	<p>自己点検・評価の結果を公表し、第三者評価等の結果を各部門にフィードバックして継続的に各業務の改善を図る。</p>	<p>大学基準協会による大学認証評価については、20年度受審時に示された助言について、改善のための取組を行い、報告した。また、27年度は、当学が作成した「自己点検・評価報告書」に基づいて行われた実地調査を受審し、適合していると認定を受けた。</p> <p>年度計画に係る実績報告及び評価結果については、ホームページでの公表や理事会等の学内会議において報告するとともに、各所管部署へフィードバックし、対応策の検討を行い、迅速に対応するとともに、次年度の年度計画策定の際、盛り込んでいくこととした。 (経営企画課)</p> <p>病院機能評価認定更新対策委員会、各ワーキング等を開催し、継続的に各業務の改善に取り組んだ結果、24年10月に病院機能評価（本審査）を受け、Ver6.0の認定を得ることができた。（有効期間：25年1月28日～30年1月27日）</p> <p>病気機能評価の結果は、5段階評価の評点平均が前回を上回り、附属病院本院の更なる質的向上が認められたものであった。また、その結果については公表を行った。</p> <p>病院機能評価の評点平均：3.94（前回：3.57）</p> <p>病院機能評価の認定を得た後は、評価の結果を関係各部門にフィードバックして、各項目の現状把握と改善の必要性を確認し、次回受審に向けての取組を継続的に行った。 (経理課)</p> <p>1月に受検した医学教育分野別評価実地調査は、36領域中、基本的水準・質的向上のための水準ともに23項目が適合、13項目が部分的適合の報告を受けた。これを受けて本学ホームページで、自己点検評価書、外部評価報告書を公開した。</p> <p>改善が望まれる点と評価された事項は、改善策の検討を行い、次回の医学教育分野別評価までに改善計画を提出予定。 (学生課)</p>		III	IV	<p>評価Ⅳ（1） 評価Ⅲ（6）</p> <p>実績報告書 該当ページ ・・・P57</p> <p>一覧表 該当ページ ・・・P45</p>

		<p>紀北分院においては、病院機能評価認定対策委員会を開催し、院内統一マニュアルの作成及び見直しを行い、院内に周知を徹底させるとともに、「幹部ワーキング」、「病棟ワーキング」を立ち上げ、関係部局へのヒアリングを実施した。これらを経て、24年9月に病院機能評価を受け、24年12月に認定を得ることができた。(有効期間：24年12月7日～29年12月6日) 病院機能評価の結果については公表した。</p> <p>病院機能評価の評点平均：3.53</p> <p>また、医療の質について、外来・入院患者を対象として26年2月に患者満足度調査を実施した。</p> <p style="text-align: right;">〈紀北分院〉</p>				
--	--	---	--	--	--	--